

令和4（2022）年度 事業計画・収支予算

[令和4（2022）年4月1日～令和5（2023）年3月31日]

歴史街道推進協議会

令和4（2022）年6月

目 次

I. メインルート事業	…… 1
II. ネットワークエリア事業	…… 2
III. 日本文化体感プログラム事業	…… 3
IV. フォーラム・展示事業等	…… 5
V. 歴史街道倶楽部事業	…… 6
VI. 広 報	…… 8
VII. 各種の受託研究・受託事業などの実施	… 1 0
VIII. 協議会運営	… 1 0
令和4年度 事業支出予算（案）	… 1 2
令和4年度 収支予算書（案）	… 1 3

I. メインルート事業

(事業目的・方針)

歴史街道の魅力を広範に発信すべく、メインルート上において広域かつ官民が連携して取り組むべき事業に注力するとともに、メインルート上の6拠点が一堂に参画できる事業の構築を目指す。

(事業項目)

1. 地域連携事業

(1) 伊勢～飛鳥間連携事業

日本風景街道「伊勢街道」連絡協議会や沿線自治体などと共催で、新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら街道ウォークや講演会などを実施する。

(2) 飛鳥～奈良～京都間連携事業

エリア内の会員団体などとのワーキングを開催し、これまでの講演会やリレーウォーク、旅行会社との連携事業を振り返りながら、本年度の活動テーマを検討・企画する。

(3) 西国街道連携事業（京都～大阪～神戸間）

エリア内の会員団体などと連携し、令和2年度（2020）に「道標」を盛り込んで「西国街道マップ」を改訂したが、本年度は、「西国街道マップ」に掲載しきれなかった情報を公開できるような取り組みを検討する。

(4) 京街道・淀川左岸地域連携事業（京都～大阪間）

京阪ホールディングスや連携地域の自治体の協力を得て、マイクロツーリズムの試行・推進するイベントを企画調整する。

(5) 観光ガイド組織との連携事業

コロナ禍の中、大阪・奈良歴史街道リレーウォーク実行委員会をはじめ、歴史街道エリア各地の観光ガイドの活動状況を見極めつつ、秋以降、各地の観光ガイド組織の活動について情報収集を行い、HPなどを通して広域に情報発信をしてゆく。

予算 1,700 千円 (R3:1,700 千円)

2. 地域共同事業

(1) 歴史街道スタンプラリーの実施

自治体および沿線5私鉄の共同事業の一環として、歴史街道の周遊性促進・寺社ネットワークの向上を目指す。

令和3年度は、デジタルスタンプと例年どおりのアナログ方式のスタンプの2種類を実施したが、コロナ禍によりデジタルスタンプが広く普及してきていることを考慮し、本年度は、デジタルスタンプのみで実施する。

予算 4,200 千円 (R3:5,500 千円)

II. ネットワークエリア事業

(事業目的・方針)

1. 南北近畿エリアの活性化
2. 「世界文化遺産」地域連携会議等との連携

(事業項目)

1. 関西を南北3つに分けた連携推進＝南北近畿の振興

事業項目	紀伊山地の霊場と参詣道	北近畿・琵琶湖 食と歴史の回廊
1. ツアー	歴史街道倶楽部などと協働し、各地ツアーを実施	
2. 広報活動 (イベント・シンポジウム・展示)	会員団体、関係団体が開催するイベント等への協力(後援活動等) 「琵琶湖さざなみ街道・中山道」※の活動(イベント等)への協力	
3. 広報活動 (新聞、雑誌等)	・会員誌『歴史の旅人』や鉄道会社パンフレットなどへの情報発信 ・マスコミを通じた広報や協議会HP(イベント情報)への掲載	
4. 映像	ケーブルTV番組の制作や「旅の星」映像の蓄積	
5. HPでの 情報発信	11言語 https://kiimountainrange.com/	https://www.rekishikaido.gr.jp/worldheritagejpn/kitakinki/

※風景街道「琵琶湖さざなみ街道・中山道」

- (1) 滋賀県下の中山道の宿場町間のゆるやかなネットワークづくりを目的とした「近江中山道連絡会議」(情報交換、相互広報を目的に6団体が参加)との連携
 - ・連携会議の開催
 - ・中山道の歴史文化資源などの相互PR、道の駅での展示等
 - ・近江路中山道のマップを活用した広報活動
 - ・歴史街道倶楽部イベントとして宿場町をめぐるウォークツアーの実施
- (2) 輪の国びわ湖推進協議会との連携
 - ・輪学(勉強会)の開催
 - ・2022年春発行のビワイチガイドブック「びわ湖一周 滋賀じてんしゃ旅」を活用した広報活動
 - ・サイクルツーリズムシンポジウムの開催
- (3) 滋賀関連の自転車促進事業への協力

2. 中央部(メインルート以外)

播磨地域、南大阪地域を中心に、会員誌『歴史の旅人』や鉄道パンフレットなどを中心とした情報発信に努める一方、同地域の会員団体、関係団体が開催する事業に対し、後援を行い、後援イベントチラシの配架協力、当協議会HPイベント情報への掲載を行う。

3. 「世界文化遺産」地域連携会議等との連携

各遺産毎の事業推進、国への要望活動等を連携して行っていく。

予算 300千円 (R3:400千円)

Ⅲ. 日本文化体感プログラム事業

(事業目的・方針)

本プログラムを実施することで、日本の歴史文化に親しむだけでなく、国内の研修生にはグローバル人材としての教養を身に付けること、また、海外からの研修生には日本人の考え方や行動様式の根底に流れる歴史文化的背景を理解してもらい、日本での研修をより実りあるものにするを目的とする。また、本目的を実現するために、講義コンテンツおよび体験型活動の充実、多様なニーズに対応するプログラム提案力の強化、実施体制の整備に取り組む。

(事業項目)

1. 日本の歴史文化を伝える講義コンテンツの充実および体験型活動の充実

- (1) 日本政府が招聘した外国人に対し、英語のみならず、その母国語で日本文化を伝えるコンテンツの充実
- (2) 社員・職員向け、学生向け、一般向け等、研修目的にマッチした講義資料の整備、および体験型活動の拡充
- (3) 講義資料・現地体験内容のこまめなアップデート等定期的な講師・ガイドミーティングを開催し、講義資料の改善や情報共有を実施
[年2回(提案→審議→共有)を目途に、必要に応じて追加開催]

2. 顧客の多様なニーズに対応するパッケージ(講義と体験型活動)提案力の強化

- (1) 海外(インバウンド)向けプログラムの充実
 - ①国際協力機構(以下、JICA)が招聘する海外からの研修員に日本の歴史文化を紹介するプログラム(講義・現地体験)については、JICAおよびPREX等研修事業者との連携を維持し、コロナ禍の下、オンラインでの開催を含め年間10件を目標とする。
 - ②関西観光本部、大阪観光局、日中経済貿易センター、旅行会社や財団等との連携により、海外企業の視察・研修旅行やインセンティブツアー、海外の教育機関からの教育旅行等への本プログラムの組み込み提案を積極的に実施する。
中国語圏からの企業研修、インセンティブツアー、修学旅行等への組み込みを目指し具体的な研修プログラムを開発、訪日旅行取扱会社への営業活動を実施する。
- (2) 国内向けプログラムの充実
 - ①企業等におけるプログラムの実施
企業・団体向けの研修や体験会の実施拡大を目指し、継続的な新規開拓を進める。
海外から研修生を来日させる企業も対象とする。(目標:新規開拓1件)
 - ②大学、高校などにおけるプログラムの実施
2025年の大阪・関西万博開催時に国際交流の主役として活躍が期待される現在の大学生、高校生に向けたプログラムを積極的に推進し、国内において、若い世代の国際交流を積極的に後押しする。
・首都圏留学生を対象に関西での日本の歴史文化を体感するプログラムを7月～11月に実施する。

- i) 熊野古道を巡るルート
 - ii) 歴史街道メインルート（京都～奈良～大阪）
このプログラムでは必ず関西在住の観光を専攻する日本人学生にも参加を募り、ルート設定やガイド体験など関西の魅力を再発見し、自ら発信することを経験をしながら留学生との交流を行う。
- ・ 関西の高校生の国際交流を推進すべく、関西の大学で学ぶ留学生や日本語学校の学生を交えて歴史文化を体感するプログラムを実施する。

◎開催予定テーマ

- i) 奈良県斑鳩町「国際交流を体感しよう！斑鳩で木の文化の謎を探る」
- ii) 大阪府大阪市「国際交流を体感しよう！大阪城の謎と不思議に挑戦！」
(i、iiとも「子どもゆめ基金」助成事業)

③通訳案内士、一般向けプログラムの実施

- ・ 関西の魅力を伝えていただく通訳案内士への情報提供を目的に、関西観光本部と共催で、オンラインを含め、本プログラムを展開する（12月～翌3月に2回程度実施する）。

3. 実施体制の整備

- (1) 講義講師の育成、人材確保と多言語対応力の強化
 - ・ 講師7名（内部1名、外部6名）体制にて継続運営中
 - ・ 講義言語は、日本語、英語、スペイン語、フランス語、中国語を常時対応
 - ・ 講義資料は、国連公用語を軸に翻訳版を整備
常時更新（日本語、英語、スペイン語、フランス語、中国語）
必要時更新（ロシア語、アラビア語）
- (2) 会員企業・団体、地域ガイドなどの協力体制整備
- (3) ガイドのレベル維持に向けた通訳案内士との協力体制の強化

4. 日本文化体感プログラムの積極的な国際発信と国内広報

- (1) フォーリンプレスを通じた国際発信
留学生との交流プログラムでは、参加留学生の出身国プレスを主対象とした広報活動を積極的に進め、プログラム開催地の知名度向上に資する発信を行う。
- (2) 地元紙を通じた活動内容の周知
プログラムを実施する地域の方々に向けた発信を行うことで、協議会の活動への理解を深めていただく。
- (3) WEB、SNSを活用した発信（協議会HPの更新とあわせて実施）
 - ・ 事業実績の紹介
 - ・ フェイスブック、ツイッター、インスタグラムを通じた即時性のある英語発信
 - ・ 既存コンテンツの活用や新規SNSを活用し、中国語圏での発信強化
- (4) 展示などを活用した発信
 - ・ 道の駅、歴史街道iセンターを活用したインバウンド向けPR展示
 - ・ 地域のガイド団体との連携＋全国通訳案内士との連携

メインルート6拠点におけるガイド講習会の実施

5. 特別企画

教材開発・普及活動「歴史街道・タイムスリップ号」の充実

令和3年度に子どもゆめ基金の助成を受けて制作したプログラムについて、更なる充実を図るために、以下について取り組む。

(1) 普及活動の実施

- ・関西圏、首都圏などの高校に向けて、プログラムについてPRを行う。
- ・旅行会社などに対し修学旅行などへの組み込みについて提案を行う。

(2) コンテンツの充実

- ・映像による紹介について、大阪、神戸編を制作する。
※奈良・明日香・宇治は制作済
- ・令和3年度、西国街道連携事業に参画する資料館等のご協力で作成したテキストについて、他エリアの資料館などへ協力を依頼し、内容の充実を図る。

(3) 英語版の制作

高校生をはじめ、留学生にも活用してもらえるよう、英語版を制作する。本年度においては、テキストの翻訳（リライトを含む）と、英語化対応に関する助成金や補助金について調査し、申請を行う。

予算 5,223千円 (R3 : 14,124千円)

IV. フォーラム・展示事業等

(事業目的・方針)

地域にある歴史・文化遺産などにまつわる見聞を通じて地域の伝統・文化を学ぶ機会を積極的に提供することで歴史街道の存在価値を示す。

(事業項目)

1. 大阪府立中央図書館共催講演会&展示

6月29日(水)～7月24日(日)

「大阪府内の街道」をテーマにパネル展示を実施

パネル展実施期間中2回の講演会を予定

2. 歴史文化遺産フォーラムの開催(文化庁地域文化創生本部、関西広域連合共催)

関西の歴史文化遺産をテーマにしたフォーラムの開催について、共催先と企画・調整し実施する。

3. 紀伊山地三霊場フォーラムの開催(紀伊山地三霊場会議共催)

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」をテーマにしたフォーラムの開催について、共催先と調整し実施する。

4. 子ども向け(小、中学生)プログラム

・目的

- ①次代を担う子どもたちに日本の歴史や文化に親しみを持ってもらう
- ②地域の歴史文化遺産を知ってもらう
- ③生涯を通じて歴史文化の現地を旅してもらう(現地に触れてもらう)

・開発

- ①奈良教育大学などの教育機関や地域の文化施設、観光ガイドなどとともに、新しい企画を開発し、試行する。
新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、奈良教育大学連携(親子プログラム)を検討していく。
- ②自治体などで実施する事業の情報を収集し、新企画開発に活かすとともに、データベースの蓄積を図る。

予算 2,485 千円 (R3:2,485 千円)

V. 歴史街道倶楽部事業

(事業目的・方針)

歴史街道計画実現のための応援団であり、かつ当該計画の検証機能を果たすための組織であるという位置づけに沿った活動に注力する。首都圏での認知度向上・会員増を目指すべく、首都圏における情報発信・活動を継続・強化していく。

(事業項目)

1. 会員誌『歴史の旅人』の発行

(1) テーマ、地域を選定した特集を設定し、春号、夏号、秋号、冬号の年4回発行。

(2) 会員誌の有効活用

より多くの方々の目に触れ、見ていただくことができるよう、公共図書館や関係団体の文化施設等へ閲覧誌としての配架先拡大を図る。現在、関西圏や首都圏の公共図書館等に加え、次世代を担う若年層への教育資材の一助として大阪府・兵庫県下の公立高校図書館等でも配架されているが、さらなる拡大を目指す。

2. 歴史・文化に触れるイベントの開催

Withコロナを前提に、感染拡大防止に細心の注意を払い実施する。

(1) イベントのさらなる魅力度向上

「歴史のまちウォーク」においては、マイクロツーリズムの観点から、短時間でもまちの歴史文化に触れるようなメニューを企画・実施する。また、「歴史ものがたりセミナー」については、現地とオンラインの併催を拡充することで遠隔地の会員に向けても歴史・文化に触れる機会を提供する。新型コロナウイルスの影響により、大規模での開催については未だ十分な検討を要するものの、「歴史街道ならでは」のイベントを引き続き開催する。

- (2) オープンイベントの実施
新規会員獲得につながるよう、会員以外も募集するなどオープンイベントを実施し、参加間口を拡大する。
- (3) 首都圏企画の継続開催と強化
奈良まほろば館共催セミナー、伝統芸能鑑賞会、歴史ウォークを継続して開催するとともに、新たな共催セミナーの開催などで、首都圏での認知度向上と新規会員獲得を図っていく。協議会会員団体の東京事務所等に働きかけ、施設等での協議会情報発信を依頼していく。
- (4) 他団体との連携
近鉄文化サロン、近畿文化会、奈良まほろば館との共催講座に加え、他の会員団体とも連携を図る。

3. 歴史街道倶楽部会員の増強

- (1) 入会促進キャンペーンの実施
2021年度下期に実施し好評を博した「歴史街道推進協議会設立30周年記念キャンペーン」の結果を踏まえ、引き続き魅力的なキャンペーンメニューを検討し、新規会員の獲得を目指す。
- (2) Web決済による入会手続き
ゆうちょ銀行でのみ手続き可能だった新規入会申込について、公式ホームページ上でも可能にすることで、さらなる会員獲得を図る。
- (3) 特別賛助会員募集
より深く歴史街道を支援していただくため、特別賛助会員の募集を引き続き行う（令和4年3月末現在25名）。
- (4) イベント会場での会員募集
歴史街道推進協議会および協議会会員団体が実施する講演会、展示、ウォーク等の会場で会員募集を行う。
- (5) 協議会会員団体における各種媒体での情報発信、入会案内チラシ配架、OB会等への働きかけ
協議会会員団体のイントラネット、関連雑誌、フリーペーパー等での会員募集記事の掲載や、各団体のOB会等において歴史街道倶楽部会員の募集を行う。
また、主要駅等での入会案内チラシの配架を依頼する。

4. Webによる積極的情報発信

Webサイト・SNSを有効に活用し、積極的な情報発信を行う。

5. ボランティアスタッフ

ボランティアスタッフ会議への参加、会員誌『歴史の旅人』の編集企画、原稿執筆、イベント企画、運営のサポートをしていただくボランティアスタッフを随時募集する。

- ・定例会議の開催：年4回開催（4月、7月、10月、1月）
- ・フォーラム活動：歴史街道倶楽部会員が、自らテーマを設けて運営するグループであり、活動を通じて、口コミによるPR活動を展開していく。

予算 11,090 千円 (R3:11,171 千円)

VI. 広 報

(事業目的・方針)

歴史街道計画の知名度向上、理念訴求ならびに歴史街道ブランドの価値向上を図るとともに、歴史街道各地の魅力を発信する。

SNSを最大限に活用した広報活動等、新しい時代に合った広報活動の展開と若年層も意識した情報発信を目指す。

(事業項目)

1. 広報活動のさらなる充実（30周年事業の発展的定着化）

- (1) Instagram 投稿キャンペーンの実施
昨年度に続き、テーマを変えて第2弾を実施。
- (2) 歴史街道スタンプ&ガイドキャラクターブック
『あおぞらわんこの歴史街道ぶらりふらり旅』の活用
キャラクターを活用したLINEスタンプの展開による情報発信、作家もへろんと
の共催展示など。
- (3) 首都圏での講演会の開催
歴史街道推進協議会設立30周年記念講演会「未来へ続く歴史街道」の首都圏での開催に向けた準備。

2. 情報発信

- (1) マスコミ、関係者向けの情報提供
 - ①メールマガジン「歴史街道なう」（毎月第4木曜日）の発信
協議会会員団体担当者へ、毎月1回、活動状況についての報告メール
 - ②イベント等開催時のプレスリリース適時発信
 - ③歴史街道情報交換会（市町村共同事業）開催
 - ④自治体、関係団体の情報交換会等への参加
- (2) 一般向けの情報提供
 - ①メールマガジン「DO楽」（毎月第2木曜日）の発信（配信先約6,000件）
 - ②月刊「歴史街道」における広告頁記事掲載
 - ③CATVリレー番組「歴史街道～わたしたちのまちの歴史と文化～」放映に対する協力
 - ④関西5私鉄の沿線情報誌等、会員企業の媒体での掲出
阪急TOKK、JRふれあいハイキングだより等

⑤歴史街道 i センター（情報発信拠点 38 か所）および大阪国際会議場での掲出

(3) 協議会会員団体の持つ媒体との連携

会員団体支援のもと、各団体の持つ様々な媒体との連携広報活動を行う。

- ①会員団体HPへの協議会ロゴ（含歴史街道計画を応援しています）の掲出依頼
- ②各社のイントラネット、社内報、PR誌などでの協力依頼

(4) 歴史街道 i センターの活性化

歴史街道 i センターを歴史街道の情報拠点として、継続して活用する。
定期的訪問等により情報発信ポイントとしての維持・活性化を図る。

<歴史街道 i センターの機能>

- ・歴史街道情報の提供
- ・歴史街道の主催、後援等の事業パンフレット、チラシの配布
- ・歴史街道スタンプラリー景品の引き換え
- ・会員団体の観光パンフレットの配布
- ・歴史街道のぼりの掲出（協力いただける施設のみ）

(5) 会員団体等が実施する事業への後援・協力

会員団体、関係団体が開催する歴史・文化に資する活動に対して積極的に後援・協力を行い、後援イベント等の告知チラシの配布協力など広報効果を増やす。

- ・目標件数 100 件以上（前年度 87 件）

(6) マス媒体への企画提案

マスコミに対して、協議会の事業理解と共同企画の実現を働きかける。

3. 広報ツールの強化

(1) 協議会ホームページの有効活用

- ・より見やすく、わかりやすいホームページを目指し、一部改訂を加える。
- ・引き続き、事業進捗に応じたリアルタイムの更新、地域の歴史文化情報の継続的発信を行う。

(2) 多言語化対応動画の制作・活用

- ・YouTube「旅の星」のライブラリーの充実
- ・歴史街道推進協議会公式 YouTube チャンネルの活用

(3) デジタルネットワーク型広報の強化

- ・若年層にも届けたい情報を Facebook、Instagram、メールマガジンなどを活用して発信していく。

4. ターゲット層の拡大

(1) マイクロツーリズムの推進

- ・(一社)大阪あそ歩委員会、OsakaMetro、大阪・奈良歴史街道実行委員会等と連携し、各地の「まち歩き」活動を推進する。

- (2) ゲームオペレーションの試行先拡大
- ・昨年度に続いての京阪電気鉄道の他、新たに阪急電鉄、阪神電気鉄道、南海電気鉄道各社との共催でリアル謎解きゲームを実施する。

(3) フォトログイニングイベントへの取組み

- ・NPO 法人日本ロングライフスポーツ協会主催イベントへの協賛

①「第14回歴史ログ迷宮の京都」 実施日4月23日(土)

②「第15回歴史ログ大阪・天下の台所」 実施日5月3日(火・祝)

5. 首都圏広報の強化

コロナ禍の影響を考慮しつつ、フォーラム・展示会の定例開催や広報物等を定例配布することで、首都圏での情報発信力を高める。

- (1) 歴史・文化フォーラムの開催
- (2) 阪急たびコト塾でのセミナー開催
- (3) 講演会「未来へ続く歴史街道」の開催検討
- (4) 東京都立中央図書館(東京都港区南麻布)との共催事業(展示会等)立ち上げ

予算 28,670 千円 (R3:11,800 千円)

VII. 各種の受託研究・受託事業などの実施

観光庁を始めとした行政・各種財団等が公募する受託事業、助成金事業等の獲得に取り組み、事業化を図る。

予算 500 千円 (R3:500 千円)

VIII. 協議会運営

(事業項目)

1. 組織体制の強化、会議体運営

(1) 協議会事務局組織体制の強化

- ・事務局スタッフの充実強化
- ・会員企業等へ出向職員要請を行い、事務局機能の強化を図る。

(2) 会議体運営※オンライン会議システムと併用して開催

- | | |
|---------|------------------|
| ①総会・理事会 | 1回[6月 2日(木) 予定] |
| ②幹事会 | 1回[5月17日(火) 予定] |
| ③専門部会 | 適宜 |
| ④全体会議 | 3回(4月、9月、翌年3月予定) |
| ⑤勉強会 | 適宜 |

2. 事業推進

I～VIの事業を推進する。

3. 会員維持・増強及び会員との交流機会の拡大

- (1) 法人会員の拡大に取り組む。
- (2) 会員との交流の機会を拡げ、法人会員との連携・協力を努める。
- (3) 会員を対象とした勉強会や現地見学会等の充実を図る。
現地見学会の実施 1回（下期を予定）

4. 要望・提案活動への取り組み

- (1) 歴史街道の理念に沿った事業への広報協力金の拡大や公募事業等への積極的な取り組みを行う。
- (2) 歴史街道計画の推進に必要な、国・自治体・企業等との連携事業については、関係団体に積極的に働きかけ、事業の推進にあたる。
- (3) 「企画提案型事業」については、会員および関係団体を中心により積極的に企画・提案を行う。
- (4) 関西ワールドマスタースゲームズ、2025年大阪・関西万博開催に向け、インバウンドを意識した企画提案や運営に積極的に協力していく。
- (5) 一般社団法人関西観光本部への参画
関西広域での観光客誘致の推進を目的とした広域連携DMO「関西観光本部」に官民連携団体として参画していく。
- (6) 文化庁の京都移転に伴う関西全体での気運醸成のための企画について、関西広域連合や関西経済連合会等と連携し、積極的に取り組んでいく。

予算 800 千円 (R 3 : 900 千円)

令和4年度 事業支出予算(案) (単位：千円)

I	メインルート事業	5,900
II	ネットワークエリア事業	300
III	日本文化体感プログラム事業	5,223
IV	フォーラム・展示事業等	2,485
V	歴史街道倶楽部事業	11,090
VI	広報	28,670
VII	各種の受託研究・受託事業など	500

計 54,168

VIII-1	組織体制の強化、会議体運営	400
-2	事業推進	200
-3	会員維持・増強・交流	200

計 800

合 計 54,968

(R 3 : 48, 580)

令和4(2022)年度収支予算書

令和4(2022)年4月1日から令和5(2023)年3月31日まで

(単位:円)

科 目	4年度予算額(a)	3年度予算額(b)	増減(a-b)
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①会 費 収 入	35,233,000	37,135,000	△ 1,902,000
会費収入	25,955,000	27,855,000	△ 1,900,000
個人会員会費収入	9,278,000	9,280,000	△ 2,000
②事 業 収 入	500,000	500,000	0
受託事業収入	500,000	500,000	0
③負 担 金 収 入	15,590,000	14,650,000	940,000
広報協力金収入	14,240,000	13,000,000	1,240,000
共同イベント負担金収入	1,350,000	1,650,000	△ 300,000
④雑 収 入	27,134,000	13,035,000	14,099,000
事業活動収入計	78,457,000	65,320,000	13,137,000
2. 事業活動支出			
①事 業 費 支 出	65,578,087	59,230,000	6,348,087
会 議 費	800,000	850,000	△ 50,000
要 望 活 動 費	0	50,000	△ 50,000
広 報 費	54,168,087	47,680,000	6,488,087
給 料 手 当	7,900,000	7,900,000	0
福 利 厚 生 費	1,810,000	1,930,000	△ 120,000
旅 費 交 通 費	900,000	820,000	80,000
②管 理 費 支 出	14,105,000	13,670,000	435,000
給 料 手 当	0	0	0
福 利 厚 生 費	240,000	170,000	70,000
旅 費 交 通 費	200,000	580,000	△ 380,000
通 信 費	585,000	600,000	△ 15,000
消 耗 品 費	3,650,000	3,750,000	△ 100,000
交 際 費	0	0	0
新 聞 図 書 費	0	0	0
賃 借 料	7,530,000	7,320,000	210,000
水 道 光 熱 費	280,000	280,000	0
租 税 公 課	1,000,000	350,000	650,000
事 務 雑 費	620,000	620,000	0
事業活動支出計	79,683,087	72,900,000	6,783,087
事業活動収支差額	△ 1,226,087	△ 7,580,000	6,353,913
III. 予備費支出	42,660,078	42,819,513	△ 159,435
当期収支差額	△ 43,886,165	△ 50,399,513	6,513,348
前期繰越収支差額	43,886,165	50,399,513	△ 6,513,348
次期繰越収支差額	0	0	0